

審査の結果の要旨

氏名 濃添元宏

高速道路管理事業においては、現地で認識された課題を解決するために、他の現地責任機関との協働体制のもとで、中央行政等の了解を得てプロジェクト形成することが重要である。しかし、そのリーダーが果たすべき役割と実践力は必ずしも明らかになってはいない。そこで、本研究は、高速道路事業体において活躍が期待される中堅幹部が、高速道路管理事業において現地課題解決と資産価値向上を目指すプロジェクト形成のために必要なリーダー機能の同定とその実践力向上のためのマネジメントツールの開発を目的としている。

高速道路管理事業における成功事例の中から 3 つの事例を選定し、これらを詳細に分析することにより、プロジェクトの形成から実現に至るプロセスを 7 段階に整理し、特に、困難な課題が数多く発生するプロジェクト形成段階でリーダーが果たすべき役割と戦略立案の方法を抽出することに成功している。

第 1 章では、本研究を行うにあたっての研究背景や事業背景、研究目的、研究方法及び用語定義を取りまとめている。

第 2 章では本研究に関わる既往研究をまとめている。研究対象とするリーダー機能に関連する分野として、インフラ事業のプロジェクトマネジメントに関する研究、アセットマネジメントに関する研究、リーダー資質や能力、ケースメソッド教育、案件形成やマーケティング論に関する研究などがある。これらの既往研究と知見に対する本研究の位置付けについて要点整理を行っている。

第 3 章では、高速道路管理事業に係る現地でのプロジェクト形成の成功事例について、詳細な事例分析を行っている。特に、リーダー自身の詳細な情報把握、テーマ設定、対策検討、価値判断などの分析整理に大きく依存することから、詳細なリーダー機能の分析整理が可能な、自己が実際に深く関与し、良好な結果が既に明らかとなった「東名集中工事導入」、「ハイウェイパークあつぎ導入」及び「秦野市道・南矢名高架橋実現」の 3 事例を対象としている。これらの事例について、重要なリーダー機能を同定することを念頭に、リーダーの果たしたあらゆる機能事実を時系列にプロジェクトの事実経緯に沿って忠実に再現し、重要なリーダー機能についてはプロジェクト戦略表の様式に再現、整理している。

第4章では、各段階におけるテーマ設定と対応方針がリーダー機能の原動力であることから、事例毎に作成したプロジェクト戦略表の内容を基にテーマ設定とその対応方針について分析整理を行っている。また、「各段階で、如何にして成功を達成できたのか」、「低い価値評価を如何にして改善できたのか」の視点から、リーダー機能の重要度を分析評価している。さらに、3事例に共通して適用可能なプロジェクトプロセスとリーダー機能を抽出している。プロジェクト形成の為にリーダー決意、原案作成、実質的意思決定を含めたプロジェクト形成のための5段階が必要であり、結果的に、準備実行段階と終結段階を加えた全体7段階からなるプロセスとそれぞれの段階に必要なリーダー機能が同定されている。

第5章では、同定された7段階プロセスとリーダー機能について検証を試みている。自己以外のリーダーが実施した2つの事例と研究関連での5つの取組みを分析することにより、7段階プロセスと前章までに同定されたリーダー機能を適用可能であることを確認している。

第6章では、本研究の結論と今後の展望について論述している。高速道路管理事業における資産価値向上を目的とする個別課題マネジメント事例を研究対象とし、プロジェクト形成段階におけるリーダー機能を同定し、具体的なマネジメント事項を抽出できたことを確認している。また、管理事業のプロジェクト形成を含む7段階構成の必要性を明示するとともに、意思決定者が少数なボトムアップ型のマネジメントのためのツールを提示できたことを確認している。さらに、今後の展望として、得られた成果を活用する方策として、高速道路管理事業における現地執行機関でのリーダー機能強化、中堅幹部リーダーの実践力の習得及び研究所における技術マネジメントの改善を取りあげ、あわせてプロジェクト戦略表の作成等について提案している。

本研究は、インフラの整備の時代から管理の時代を迎えている我が国のインフラ事業において、現場で発生する問題を解決するためのプロジェクトを形成し成功に導くためのリーダーに求められる役割とマネジメント手法を提示し、社会的意義の大きい有用な成果を挙げたものと評価できる。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。